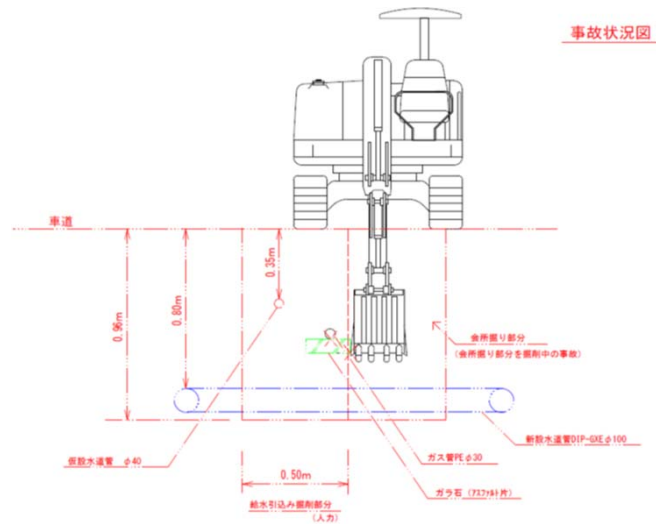


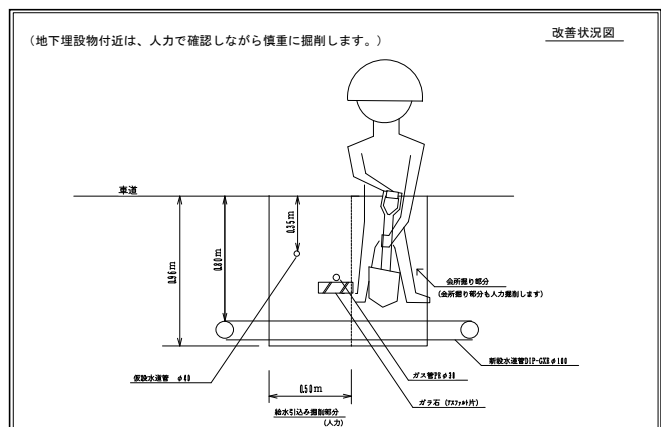
公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年 5月 2日(水曜日) 14時 45分			工事関係者区分	二次下請
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	φ30ガス供給管の破損			事故レベル	Ⅱ	休業見込日数	
工事概要	経年老朽化による水道管の更新工事						
事故概要	仮設水道管から新設水道本管へ給水管の切替工事を行うため、機械掘削中にφ30のガス供給管を破損させもの。						
事故原因	掘削箇所において、転石があったため、バックホウで引き上げようとしたところ、ガス管下部の土砂も一緒に持ち上がり、ガスが湾曲し破損させた。 ガス供給管と余掘り部の転石が、近接しているとは気づかずに機械掘削を行ったこと。						
改善策	安全意識を高めるため、安全会議を実施し、下記のとおり改善策を講じた。 1. 地下埋設物付近を掘削する際に、機械掘削と人力掘削との作業区分を社内で基準(埋設物との離隔)を定め、徹底して取り組んだ。 2. 作業開始前に地下埋設物等の状況を作業者全員で確認を行い、掘削断面内は人力掘削により露出確認を行った。						

事故状況図



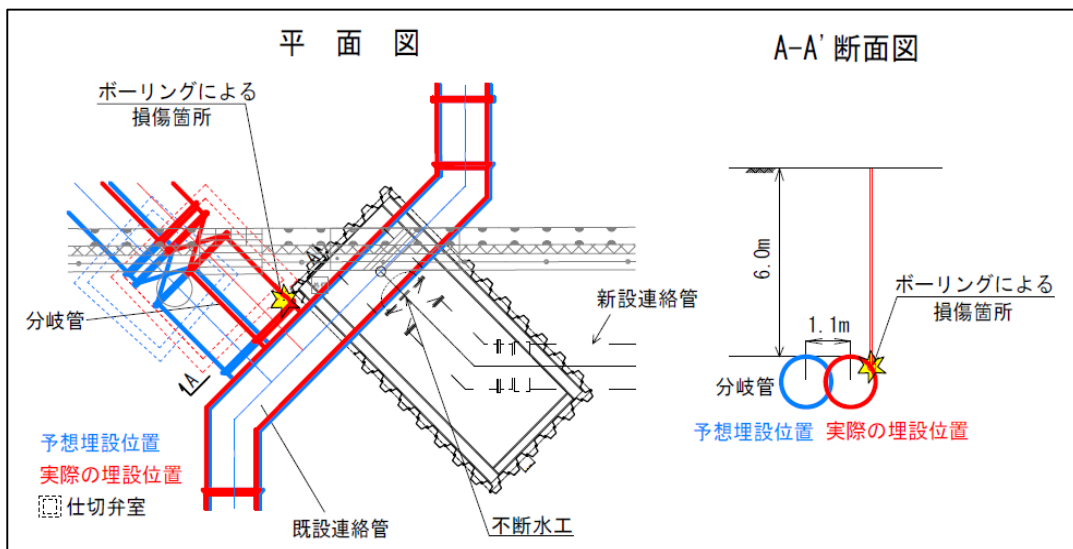
改善状況図



公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年 5月15日(火曜日) 10時20分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢		業種区分	土木
被災程度	φ1500水道管破損			事故レベル	I	休業見込日数	
工事概要	管布設工事(開削工)						
事故概要	土留工欠損部の地盤改良を薬液注入工法により施工する際に、ボーリングマシンにより分岐管(φ1500mm)を損傷したものの。						
事故原因	本工事で接続する既設連絡管については、詳細な位置や深さ等の確認方法を監督員と協議し、調査を行い、正確な位置等を確認していた。しかし、分岐管については、竣工図書との現地照合確認を十分に行わず、また監督員から分岐管に設置している仕切弁の弁室の状況調査の指示がなされていたが、仕切弁室は水没していたことにより十分な確認を怠ったため。						
改善策	事故再発防止策検討会議を実施し下記事項を行うこととした ・地下埋設物については、事前協議内容および竣工図書等と現地照合を、複数人で確認するよう徹底する。 ・市民生活に影響ある施設での施工であることを再認識し、埋設物の必要な保安措置(マーキング)を施し、再発防止に努める。						

事故状況図



改善状況図



事故再発防止策検討会議の実施

現地照合確認
地下埋設物



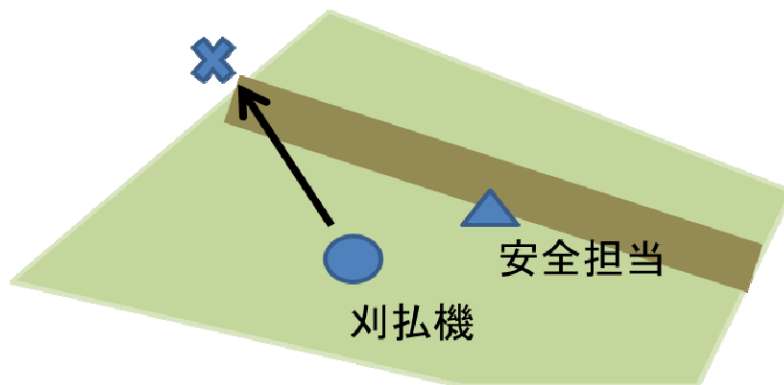
現地マーキング
(保安措置)状況



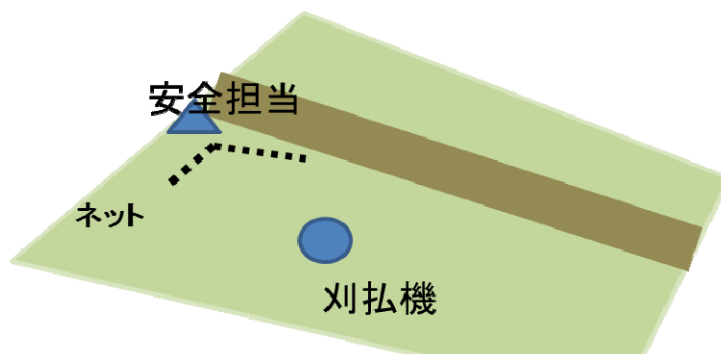
公共工事等事故情報

事故分類	死傷公衆災害	発生日時	平成30年5月12日(土曜日) 8時40分			工事関係者区分	元請け
事故区分	第三者人身	性別	男性	年齢	不明	業種区分	土木
被災程度	額に石が当たり血がにじんだ			事故レベル	Ⅱ	休業見込日数	
工事概要	公園等除草清掃業業務委託						
事故概要	芝刈り機による除草作業を行っていたところ小石が飛んだようで、公園北側の歩道を歩いていた通行者が、けがをしたもの。						
事故原因	歩道側(被災者側)に飛び石防止のためのネットを張っていなかった。						
改善策	作業方法を詳細に見直しを行い下記項目を実施することとした。 ・ネット設置位置の見直し、作業前の石拾い、草刈り高を3センチ以内とする。 ・作業範囲を小さくし、安全担当者の目がより届くようにする。						

事故状況図



改善状況図



公共工事等事故情報

事故分類	労働災害	発生日時	平成 30年 5月 28日(月曜日) 13時30分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	墜落・転落	性別	男性	年齢	60	業種区分	土木
被災程度	非骨傷性頸髄損傷			事故レベル	Ⅱ	休業見込日数	60日
工事概要	地下鉄七隈線延伸工事						
事故概要	10tトラック車にて搬入した積荷(型枠支保工材)の荷卸し作業で、玉掛けした後に、荷台の後方に置いていた介錯ロープを取りに行くために積荷上を移動していたところ、積荷の荷締めワイヤーに足が引っ掛かり転倒し顔面を荷台に打ち受傷した。						
事故原因	前方の積荷の玉掛け作業後に、介錯ロープを荷台後方に置いていたため、作業足元を十分確認せずに荷台上を単独で慌てて移動したため。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 不安定な積荷上を移動しなくても荷卸し可能な積荷の配置および作業手順を確立し、周知徹底する。 荷台上での玉掛け作業は2人以上で行う。 慌てた行動をしない。 上記改善策を適宜、継続的に指導、教育する。 						

事故状況図



※ 被災者は安全帯を着用・使用していた。
 ※ 被災時は全てのおおりを立てていた。
 (救出時に一部のおおりを降ろした)

改善状況図

積荷の配置確認
(機材センターにて)



現場荷卸し状況



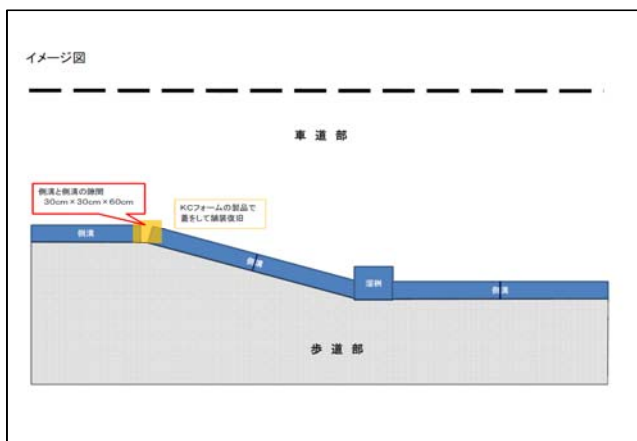
安全教育状況



公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年5月30日(水曜日) 15時20分頃			工事関係者区分	元請け
事故区分	陥没	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	車道陥没(30cm×30cm 深さ65cm)			事故レベル	I	休業見込日数	
工事概要	下水道工事(側溝布設)						
事故概要	側溝を布設し、仮復旧の状態状態で交通開放をしていたところ、開放後約2週間経過した際に車道と路側帯の境目付近で道路が陥没した。						
事故原因	バスカット終点の屈曲部において、側溝製品を加工し布設をしなければならなかったが、製品の加工工程が交通規制時間内に間に合わなかったため、側溝用埋設型枠2枚を被せアスファルトで仮復旧し交通開放していたことが原因と思われる。						
改善策	事故再発防止研修を実施し、材料を目的外使用しないことおよび、日々の作業工程を余裕ある工程に見直しを行うことにより安全意識の向上を図った。						

事故状況図



改善状況図

